

通し番号	3764
------	------

分類番号	12-35-15-07
------	-------------

ヤノネカイガラムシの天敵寄生蜂、ヤノネキイロコバチとヤノネツヤコバチの神奈川県における分布	
[要約] ヤノネカイガラムシの天敵寄生蜂、ヤノネキイロコバチとヤノネツヤコバチが放飼されて17年が経過した。今年度2種の寄生状況を県下全域で調査を行ったところ、地域により寄生率の差はあるもののカンキツ主要産地全域に定着していることが再確認され、ヤノネカイガラムシに対する専用の防除は依然必要がないと判断された。	
農業総合研究所 根府川試験場	連絡先 0465-29-0506

[背景・ねらい]

神奈川県では、1984年にヤノネカイガラムシの天敵寄生蜂、ヤノネキイロコバチとヤノネツヤコバチを導入して以来、1993年までに数回の人為的放飼が行われ、1994年には県下産地全域において2種の定着が確認されている。寄生蜂の導入・定着に伴い、ヤノネカイガラムシの被害が減少し、カンキツの防除暦から6月の有機リン剤を必須防除から外すなど、他作物に先駆けて環境保全型栽培に取り組まれているが、最初の放飼から17年、県下全域の定着確認から7年が経過したので、最近の定着状況を明らかにし、防除上の資料とする。

[成果の内容・特徴]

- 2001年2月21日～3月25日にかけて、県内のカンキツ園19ヶ所からヤノネカイガラムシ寄生葉を採集し、実体顕微鏡下で2種の寄生蜂寄生状況を調査した。ヤノネカイガラムシ採集園は、ほとんどが放任園または管理が不十分な園であった。
- ヤノネキイロコバチは3ヶ所を除き、寄生が確認された。その寄生率は0.6～51.2%であり、全体的に寄生率は低い傾向にあった。1991年調査の結果と比べると、ほとんどの園で寄生率が減少していた。寄生を確認できなかった3園は、日陰の園か、雑草がからまり樹冠内に日がささないような状態であったが、本種の移動分散能力は高いため、このような状況が改善されれば寄生を確認できると考えられる。
- ヤノネツヤコバチは全園で寄生が確認された。その寄生率は3.9～61.3%であり、ヤノネキイロコバチより寄生率が高い園がほとんどであった。さらに、1991年の調査と比べると、ほとんど同様の寄生率であり、移動分散能力は劣るものの定着性が高い本種の特性を表していた。
- 2種の寄生蜂寄生率は、明るく開けた園で高くなる傾向にあり、日陰や雑草がからまり樹冠内に日がささないような状態の園では低い傾向にあった。

[成果の活用面・留意点]

- ヤノネカイガラムシ多発園以外は専用の防除は必要がなく、天敵の活動に防除をゆだねるべきである。

【調査地】 宇治市：宇治市動物園付の公園（ヤブネツ・ヤブネツ）  
【調査地】 宇治市：宇治市動物園付の公園（ヤブネツ）  
【調査地】 宇治市：宇治市動物園付の公園（ヤブネツ）

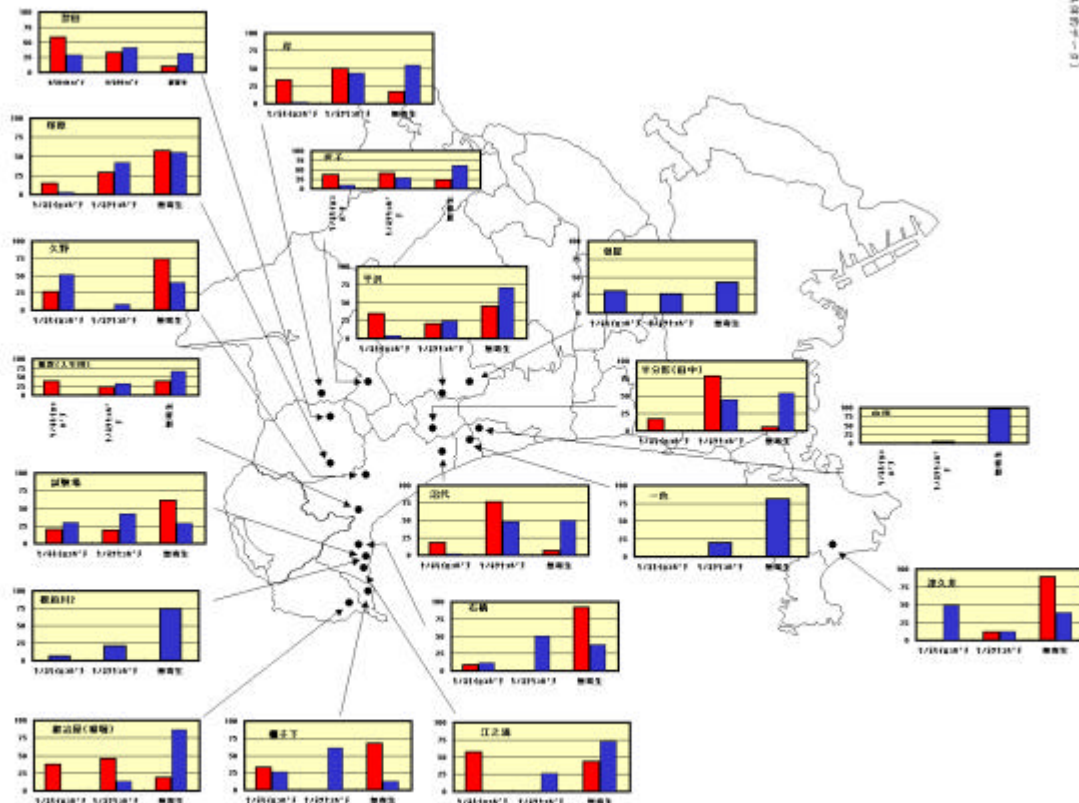


図1 ヤノネキイロコバチとヤノネツヤコバチの寄生率  
■ - 1991年(徳久井のみ(1994年)) ■ - 2001年 地名の( )内は1991年の調査地点